

竹原管内景況調査

6月の景況DIは、製造業は好転、非製造業は悪化

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和5年6月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

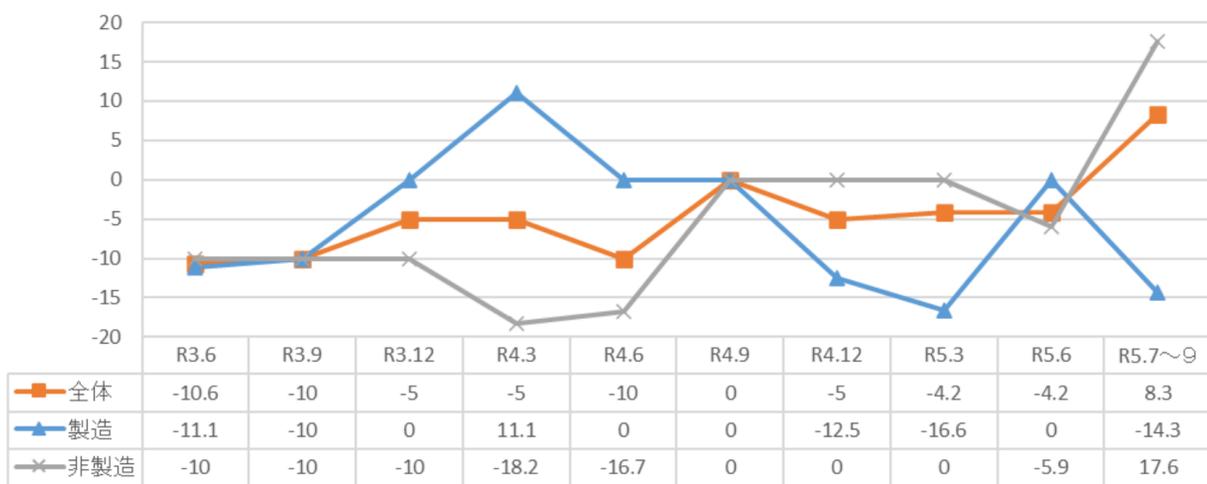
調査概要
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和5年6月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	13	6
建設	5	4
小売	12	8
サービス	17	6
合計	47	24

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



6月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は16.1ポイント好転し、非製造業は5.9ポイント悪化しました。6月と比べて7月~8月までの見通しは、全体では、12.5ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

- 《製造業》
- ・国内外の経済活動の復調による受注増。(精密機械)
 - ・コロナ禍も引き続き業況は不変である。(精密機械)
 - ・飲食店がまだ完全回復していないが、小売店の店売りが好調。輸出も増加。(日本酒)
 - ・各種商品の値上げが進み、消費者の節約志向が一段と強まり、厳しい環境ではあるが、昨年は、一昨年までの新型コロナ影響に伴う内食需要の反動減を受けていたこと、11月に2度目の価格改定と新たな需要喚起策を進めたこともあり、売上は回復傾向。(食品)
- 《非製造業》
- ・食料品、光熱費の高騰による購入意欲の減少。(衣料品)
 - ・仕入れ価格の上昇は、販売価格に転嫁できたが、電気、ガス、ガソリン、包装資材等全て「とっていいほど価格が上昇しているので、それはまだ転嫁できてない。(食品)

●原材料・エネルギー価格の高騰による影響と販売価格への転嫁状況について

- 《製造業》
- ・6月に販売価格の変更を行ったが、原材料高騰が続くため注意。(精密機械)
 - ・販売価格転嫁で原材料・エネルギー価格分を賄いきれない状況。(工業用ゴム)
 - ・若干であるが引き続き値上がり状況である。(精密機械)
 - ・完全に転嫁は無理。(日本酒)
 - ・昨年に対して、約10億の原材料、エネルギー価格の高騰影響を見込んでいる。家庭用としては、昨年2月、11月の2度 価格改定を実施し、価格改定効果として約5億を見込み、その他の自助努力などと合わせて高騰影響を低減させている。(食品)
 - ・大型の冷蔵庫、冷凍庫があるので、影響は大である。販売価格への転嫁は、完全にはできていない。(食品)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)